

議 事 録

会議の名称	岩倉市自殺対策計画委員会（令和４年度）
開催日時	令和５年３月２０日（金） 午後２時から４時まで
開催場所	岩倉市生涯学習センター 研修室１
出席者	大藪元康委員長 伊藤文委員 櫻井智委員 檜木治幸委員 王子田美樹子委員 有川かがり委員 小川美枝子委員 渡邊あけみ委員 青木大委員 石黒一弘委員 櫻井逸子委員 福祉課長（石川文子） 福祉課障がい福祉グループ長（片桐慎治） 福祉課主任（渡邊拓己） 福祉課主事（小島沙織）
欠席者	若杉賢司委員
説明者	福祉課障がい福祉グループ長（片桐慎治）、福祉課主事（小島沙織）
会議の議題	１ あいさつ ２ 議題 （１）岩倉市における自殺者の状況について （２）令和４年度計画推進進捗報告について （３）第２期岩倉市自殺対策計画策定に係るアンケートについて ３ その他
議事録の作成方法	☒ 要点筆記 ☐ 全文筆記 ☐ その他
記載内容の確認方法	☒ 会議の委員長の確認を得ている ☐ 出席した委員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
会議に提出された資料の名称	（資料１）名簿 （資料２）令和４年岩倉市自殺者数（暫定） （資料３）地域自殺実態プロファイル 2022 （資料４）自殺対策計画進捗確認シート（基本施策） （資料５）自殺対策計画進捗確認シート（重点施策） （資料６－１）岩倉市自殺対策計画策定のためのアンケート調査の概要について （資料６－２）アンケート（案）
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍聴者数	０人
その他の事項	なし

1 あいさつ

2 議題

（１）岩倉市における自殺者の状況について

事務局から説明。

委員長：昨年に比べ自殺者が増えている。資料３の３ページ目の岩倉市と全国平均を見比べると、70代男性と80代女性の割合が高いがどうか。

事務局：全国的には女性と若年層の自殺が増えているが、岩倉市では児童・生徒の自殺がなく、高齢者・生活困窮者の自殺者が多い。70代80代の高齢者世帯の自殺者が増えている要因は高齢者の介護疲れ、孤独・孤立などが考えられる。

委員：昨年に比べ、自殺者が3割以上増えている。コロナの影響があり、生活困窮者の支援、孤立者の支援を早めに行なう必要がある。

委員長：介護をしている人は孤立しがちとなる。介護サービスが入っていると発見しやすく食い止めやすい。

委員：同居している人がいるのに自殺者がいるのは残念。

委員長：周囲の気づき、支援に繋げることが必要。支援の内容を知らないとつながらないので啓発・広報も必要。

委員：うつになって自殺されているのではないかな。

委員：コロナ禍になって、どうしたらいいか分からなくなっている。ラインなどのSNSで仲間と繋がることで、心が救われることもある。

委員長：いい仲間と繋がることで孤立を防げる。気持ちの持ちようだが、さりげなく広めていけるとよい。

委員：事業主からは経営の先行き不安、資金繰りの相談がある。コロナ禍の補助金はあるが、お金を返済していかないといけない。中小企業に人が集まる場所を作って会話できる場所も必要。

委員：同居の方がいるのに亡くなる方は、介護疲れが要因であることが多い。5市2町の中で、岩倉市は60代の女性の自殺が多いので気を付けたほうが良い。自殺者の2割は自殺未遂の人。自殺未遂者の支援が必要。

委員長：自殺未遂者の支援が課題。他市町の状況も参考にしたい。

（2）令和4年度計画推進進捗報告について

事務局から説明。

委員：ゲートキーパーアドバイザー育成講座とはどのようなものか。

事務局：ゲートキーパーアドバイザー育成講座は市で開催しているものではないが、市で開催しているゲートキーパー研修は誰でもゲートキーパーになれるという研修。ゲートキーパーアドバイザー育成講座はより専門的なものではないか。

委員：県でもSNS相談をしており、たくさんの相談者がいる。岩倉市は自死遺族の会があるのが特徴的。自死遺族の会のことを知りたい。

事務局：地域包括支援センターの相談員が参加しており、身近な人が亡くなった人が参加している。

委員長：他市町と比較すると市の特徴が出る。支援に繋げていけるとよい。

委員：PTAがPTASとしてS＝社会で支えていくという情報を知った。PTAや子ども会等の既存の組織を活性化することで、親同士の交流の場が図れるのではないか。

委員長：地域で子供を育ていくという考え。

委員：時代ごとに役割が変わっていく。今後、中学校の部活も地域とともに一緒に行なっていく。地域の人が学校に関わっていくことにより、地域の人のやりがいを生む、将来的に子どもが地域に帰るという学校を核とした地域作り（コミュニティースクール）を進めていく。PTAも含めて地域作りをしていくように準備している。

委員：児童の自死はないが、リストカットしている人はいる。不登校の人もいるが、昔に比べて学校へ行かなきゃいけないという認識は薄くなった。悩みをうまく相談

できない子供がいるので、子供が子供の悩みを解決する（ピアサポート）で心の成長のサポートを行っていく。

委員：コロナ禍において有効求人倍率が低下、現在はゆるやかに回復しコロナ前に戻りつつある。就職活動が長期的になると精神的に落ち込む人もいる。就職のことだけでなく、複合的なことを含めて自殺を考える人がいるため、職業安定所にて相談窓口を設置している。

委員：市で開催しているこころの健康相談は月1回だったが、コロナ禍になり月2回に増やした。当初は1人1回のみの相談だったが、継続的にフォローしたほうがよい人は相談を続けている。大切な人を失った人や、経済的な悩みなどが重なり相談に来る人がいる。高齢者世帯の対応について連携を強化していきたい。

委員：高齢者にとってコロナはハイリスク。コロナ禍にて人との接触を断っているため、特に注意して対応していかないといけない。何のために生きているのか分からなくなってくる。積極的に自殺を考える人の後ろには、たくさんの漠然と死にたいと考える人がいる。居場所作り、誰かと関わることが大切。

委員：増え続ける高齢者がコロナで閉じこもり、心理的に不安になる。老人クラブに参加する人は元気だが、積極的に他者と関わろうとしない戸を閉ざしている人に対する政策をお願いしたい。

（3）第2期岩倉市自殺対策計画策定に係るアンケートについて

事務局から説明。

委員長：「ゲートキーパ研修」や「あみ〜ご」や「大切な人を亡くされた人のお話会など」を知っているかの項目も入れると、アンケートを回答した人に岩倉市の取り組みを知ってもらえる。相談窓口については、見開きにして説明を入れると分かりやすい。

委員：アンケートは、県のデータとの比較ではなく、過去の岩倉市のデータとの比較に使うのか。相談窓口の項目は、知っている・知らないだけではなく、活用したかを確認するのもよい。

事務局：アンケートの使用は、岩倉市における過去のアンケートとの比較。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

委員長：相談窓口を活用したいけど相談できない人の理由が分かると、相談窓口利用のハードルを下げられるのではないかな。

委員：記述を入れて、具体的なことを聞くのがよい。選択式のみだと実態を掴みにくい。

委員長：今後、委員会でアンケート内容を確認する機会はない。

事務局：アンケート内容は、委員の皆様は書面で確認をとる予定。

委員：アンケートの記述式に賛成。漠然と死にたい人の中には、話を聞いてほしい人がいる。

3 その他

特になし

（午後 4 時終了）